

Igroup

communication

Special **06**
2022年7月25日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

合同研修会
当法人の顧問弁護士の紹介

ホームでのイベント

湯布院キャンプ／じゃがいも堀

アドボケイトについて
自立援助ホームひらくへの見学会

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013

www.npo-aig.jp



合同研修会も開催いたしました。
当法人の顧問弁護士の前田先生による
「成人年齢引き下げに伴う法律のお話」について研修を行いました。

■ 合同研修会

6月16日定期総会に合わせて、合同研修会も開催いたしました。
今回は当法人の顧問弁護士の前田先生による「成人年齢引き下げに伴う法律のお話」について研修を行いました。その後は、参加しているホームの職員間で意見交換などを行いました。
昨年は熊本で開催いたしましたが、今回は福岡の博多駅前の顧問弁護士事務所が入っているビルの会議室にて行っています。
まずは職員の方が、弁護士事務所を把握して、先生との面識を行うことで、気軽に相談できるきっかけづくりを行ってみました。

意見交換会では、福岡・熊本・長崎から参加している職員の方が、日頃の悩みや困りごと等課題と感じている点について質疑などを行っていました。
対面での実施は、オンラインよりも充実した様子で、励ましあう様子も伺えました。

今後は顧問弁護士による、入居者を対象とした「法律のお話」等を実施する予定です。
これからも色々な企画を検討して、入居者と職員が共に成長できるように取り組んでいきたいと考えています。



前田 牧 MAKI MAEDA

【カウンセラーのような話しやすさ】

大学卒業後は臨床心理士を目指して心理学やカウンセリングの技法を学びました。
残念ながら臨床心理士にはなれませんでした。総合病院で事務職として5年間勤務し、多くの患者さんと接する中で、お話を「傾聴する」ということを学びました。
ご相談者様からは「話しやすかった」「気持ちを分かってくれた」「話が分かり易かった」という感想を多くいただいています。

【力を入れている分野】

労働関係

残業代請求、過労死・過労うつ、パワハラ、セクハラ等のハラスメント、不当解雇などの各種の労働問題を取り扱ってきました。
これらの問題を弁護士に相談したいと思っている方が多く「会社に良くなってほしい」「問題があることを経営者にわかてもらいたい」と仰います。
労働問題を提起することで、会社はより安全で働きやすくなるはずです。そういう会社が増えることを願って、労働問題に取り組んでいます。
これまで取り扱った事例の詳細は「解決事例」をご覧ください。

医療関係

私はもともと医療機関の事務職として働いていましたので、医療や健康に関する問題を取り扱うことが得意です。
弁護士になってからも医療問題を多く取り扱う法律事務所に在籍していました。医療問題の相談を扱う市民団体で相談員の経験もあり、医療関係のお仕事を多くいただいております。
医療問題を提起することは、医療を萎縮させることにつながるという方もおられますが、問題を真摯に振り返ることが、より良い安全な医療の提供につながると思っています。
また医療機関に勤務していた頃は、システム導入や減点対策、診療報酬改訂への対策、内部監査などを担当してきましたので、医療経営の分野でも、医療機関がより良い医療を提供できるようなサポートをさせていただければと思っています。





はじめての全員参加キャンプ

えんでは、5月中旬に湯布院にてキャンプを行いました。これまで、児童と職員で遠出することはありましたが、今回が初めての全員参加の旅行となりました。天気はあいにくの雨予報でしたが、当日には雨はやみ、それぞれが思い思いの1日を過ごせました。

キャンプまでの道中は、ドライブスルーに寄ったりと、わくわく楽しみな時間でした。山奥の小道を進む際には、まるでジェットコースターのように車が揺れ、児童らがはしゃぎとても賑やかでした。キャンプ場では、児童も職員も大はしゃぎ。風景や食事の写真をたくさん撮っていました。普段はなかなか見られない自然の風景を真剣に撮る児童や、「カメラ貸して!」と言って、他の児童や職員の写真を撮る児童の姿もありました。

初めは皆、広いキャンプ場をそれぞれ探索していましたが、最終的に全員がいる場所に自然と集まっていたのも、微笑ましい光景でした。

夜もキャンプファイヤーをしたりと、ゆったりとした時を過ごしました。大自然の中で、児童の普段では見られないような笑顔もたくさん見られました。キャンプ場のスタッフさんから「本当の家族みたいですね。」と言われたことも忘れられません。それ程賑やかに仲良く見えたようでした。

いつもお世話をしてくれている職員へ、児童から母の日のお花のプレゼントもありました。このサプライズには、職員も皆感激しておりました。

児童らは日々、アルバイトや学業に励んでいます。時には厳しい現実にも苦しむこともあります。楽しいことばかりではない日常で、将来への不安や自身への葛藤を人知れず抱えている児童達です。その中でも、今回のキャンプで緑豊かな風景や皆との穏やかな時間、美味しい食事を満喫し、それぞれが癒される時間を持てたのではないかと思います。

その一方で、そこに至るまでは各児童様々な思いがあったようです。前日までは、キャンプの誘いに応じていても、直前にやはり不安になり、行くかどうか迷いギリギリまで行かないと言っていた児童や、部屋割りが誰となるかを何度も確認する児童もいました。皆で参加することの良さも感じつつ、児童によっては不安や負担感が生じることもあると改めて実感しました。それぞれの児童の気持ちを丁寧に聴き、その思いに寄り添うことの大切さや、行かないという選択肢を保障する関わりを考える機会にもなりました。1泊2日という限られた時間ではありましたが、今回夢のような一時を企画して下さったホーム長に感謝し、これからもより一層支援に力を尽くしたいと思います。

そして、このキャンプでの思い出がこれから生きる子どもたちの大切な思い出になったことを願っています。



5月の下旬。じゃがいも堀を行いました。

春日だけでなく、熊本、北九州のホームからも職員と児童が参加し、約一時間汗を流しました。じゃがいもを引っこ抜いたり、ビニールを剥いで土に埋もれたじゃがいもを拾ったり、入れた袋を運んだり。晴れ間がのぞく空の下、お互いにコミュニケーションを取りながら、作業に励みました。採れたじゃがいもは30袋分。それぞれの施設に配っても十分過ぎるほどの量でした。たくさんのじゃがいもが採れただけでなく、職員と児童と一緒に外で作業をしたり、他のホームの職員・児童と関わったりと、とても意義のある時間でした。





自立援助ホームひらくへ見学に伺いました!

自立援助ホームひらくの由来

これまでの生活の中でうまくいかないことがあったとしても、
未来は自分の力で切り「ひらく」ことができる人になってほしいとの思いが込められています。

**虐待や貧困など、大変厳しい環境のなか、
一人で頑張っている青少年に 安全で安心した
生活を送れるホームを提供できるようスタッフ一同、
寄り添い見守っていきます。**

宮崎県延岡市伊達町にある定員6人(男女)のホームへ伺いました。

延岡市内で駅も徒歩圏内で、飲食店や生活雑貨店なども近隣にあり、就労先には困らない環境が伺える地域でした。ホームページにも『社会で生活するための自立支援、仕事に必要なスキルを身に付ける就労支援等を行っています。』と記載されているとおり、就労支援には力を入れていると伺いました。訪問して驚いた点については、ビルの2階と3階を借り切ってすべて個室(鍵付き)男女でフロアを分けて浴槽も各階にあり、キッチンとリビングもとても広く、ダイニングとリビングの空間が分かれていて 男女でも個別対応が十分に行えるように 配慮されていることが伺えました。

コロナ対策も整っていて、入口で顔認証の検温や訪問時の検温記録、換気機能付きのエアコン設置など整いすぎていました。

現在、空き状況もあると伺い私は『こんな環境で生活できるのもったいない』と感じて話を伺っていました。アパートタイプの自立援助ホームとしては、とても見本になるようなホームです。

私も鍵付きの個室アパートタイプで生活したい子がいたら、紹介したいと思うホームでした。

これからも同じ九州内で連携をはかり、子どもたちの支援に取り組んでいきたいと思いました。

一般社団法人しのめ
自立援助ホーム ひらく

〒882-0874
宮崎県延岡市伊達町1丁目48番地16
TEL:0982-27-4193
FAX:0982-27-2698



子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



えん

自立援助ホームえん

いつもと変わらない日常を送ることがとても
難しいことだということを経験させていただきました。

大切な利用者が命を絶ってからもうすぐで半年が経過します。この間新しく入居した利用者もなくいつもと変わらない日常を送っています。悲しい出来事があった時は、利用者や職員がいつもと変わらない日常を送ることがとても難しいことだということを経験させていただきました。この経験を二度としない為にも職員と共に成長していきたいと考えています。

5月はホームを初めて利用者全員と職員全員でキャンプへ行くことができました。これまでも「みんなでいこう」と企画を行ってきましたが、個別にしか実現することができずに、いつかはと想い続けたことができたことには、感謝しています。前日まで行くと言っていた子も、当日になると「行かない」となることもありました

が、不安な気持ちを聞きながら、行くことに変わってもらえたり、どれも大切な思い出になりました。フォトブックも完成して、みんな思い思いの記念になったのではないかと思います。良いことばかりではないのが、ホームの日常です。キャンプの数日後には、突発的に無断外出をする子や、性被害にあう悲しい出来事を経験する子もいました。これからもありのままを受け入れながら支援を続けていきます。



テンポラリー

テンポラリー

日々の支援を公平に行っていくことの
難しさを感じながら支援に取り組んでいます。

開設後半年が過ぎ、定員6人満床の状況で日々を過ごしています。4月から高校へ入学した子や大学へ入学した子もいました。自分の意志で入学をし、微笑ましい時期を過ごしていたのですが、5月病?!なのでしょうか。

すでに、大学生となった子は退学をして、高校生になった子は不登校になってしまいました。担任の先生がたびたび家庭訪問をされ、声かけや面談を行っていましたが、最近ではそれにも応じなくなり、食欲も低下、活動量も減るなど心配が絶えない状況となっています。

就労に関しては、仕事を辞めても新しい仕事を探して、複数応募している子もいれば、仕事は探さずにプライベートを充実させている子もいます。

その中でも高校と仕事を両立している子もおり、それぞれが思い思いの生活を送っています。

共同生活の難しさは、大人でも感じることです。相部屋で生活している子のストレスは計り知れないものがあります。「部屋を変りたい」「一人暮らしをしたい」という相談も日常茶飯事です。それが行き過ぎると職員に対しての暴言につながっていく子もいます。日々の支援を公平に行っていくことの難しさを感じながら支援に取り組んでいます。



ラブ

自立援助ホームラブ

自立援助ホームラブは今年6月で3周年を迎えることができました!

自立援助ホームラブは今年6月で3周年を迎えることができました! 関係者の皆様から絶えず御支援を頂いているおかげで、ラブの児童・職員ともに自立に向けた歩みを続けることができました。一歩一歩の大きさはそれぞれ違いますが、確実に前に進んでいっていることを実感しております。心より御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願ひ致します。そろそろ熊本特有の暑さと湿気がやってくる季節だな、と思っていたら、肌寒い日が再び戻ってきました。身体をだるそうにしている児童の様子も見られます。雨の日には頭痛を訴える児童も一定数おり、これから梅雨の終わりにかけて、いつも以上に心身に不調をきたすのではないかと予想しています。



しかし、今後のビジョンを持っている児童に関しては、「疲れた」「だるい」と言いながらも自分で決めたスケジュールをこなしているようです。そうでない児童に対しては、どうしたら今後について考え、話せるようになるのか、関係機関と相談をしながら支援の方法を考えているところです。まずは健康第一に、児童・職員ともに元気に過ごしていきたいと思ひます。



庵

自立援助ホーム庵

子どもたちにとって、心休める帰る場所であるといいなと思ひ支援をしています。

緑の美しい季節になりました。庵の周辺は阿蘇の山が見え、田畑が広がり自然が多くとても素晴らしい環境にあります。幹線道路からも離れているため、小鳥のさえずりが聞こえ、時には猫が日向ぼっこをしにやってくることもあります。のどかで季節を肌で感じる事ができる素敵な場所です。落ち着いた環境の中で子どもたちにとって、心休める帰る場所であるといいなと思ひ支援をしています。

庵の最近の状況ですが、高校卒業に向けて頑張っている子がいます。その子から卒業と同時に就職をしたいと報告がありました。一人暮らしをすることも計画しており貯金をするためにアルバイトにも励んでいます。いまの時代、若者はなかなか夢を持つことが少ないと耳にすることも多く、夢をもち目標に向けて頑張っている姿をみることは本当に嬉しく思ひます。しかしながら庵にきた当初からその姿を見ていたわけではありませんでした。紆余曲折あり、様々な葛藤を抱え、一つずつ乗り越えての現在です。その過程を見てきたからこそ成長を強く感じています。

新たに自立への取り組みとして自らの意思で朝食作りを始めています。メニューは毎朝「目玉焼きとウインナー」です。スタートした頃は、スクランブルエッグだった目玉焼きも今ではしっかり目玉になっています。少しずつ上手になっていく目玉焼きを見て「努力は必ず実を結ぶ」という言葉が頭に浮かびました。料理に限らず全ての物事に共通する言葉だと思ひます。庵で学んだことを、今後の人生の糧にして生きていけるような、そんな支援をしていきたいです。



テンポラリくまもと

テンポラリくまもと

今では子ども達からスタッフへ話しかけてくれるようになりました。

テンポラリくまもとは男子2名女子2名が同居しています。棟は隣同士ですが男女共同という事で常に課題はありますが、それぞれにアルバイトをしながら学校に通い、1歩ずつ自立への準備が始まっています。入所してすぐは自発的な会話も少なかった子ども達ですが徐々に信頼関係を築き1人で不安や悩みを抱え込まないよう支援を行い、今では子ども達からスタッフへ話しかけてくれるようになりました。また、庭には野菜栽培に取り組み自給自足のありがたみを感じながら美味しく安心して毎日食べられる事に日々幸せを感じています。今後も子ども達と向き合いながら寄り添いサポートを続けていきたいと思ひます。



inn

自立援助ホームinn

今後動物と触れ合うような時間を取り入れてみようと考えています。

自立援助ホームinnは、車通りも少なく海に面しており、ドライブやお散歩に最適な立地となっています。少しずつ温かくなってきたので、外出しやすくなりました。最近、天気にも恵まれているので、児童とドライブに行くなど、日中に児童が起きて活動できるような形を目指しています。レクリエーションとして、長崎バイオパークに行き、動物が好きな児童が、いろんな動物と触れ合う体験もすることができました。日中起きて活動することで、体を動かし、体力作りや気分転換、そして気分の安定につながっていくために、今後も色々な活動を考えていきたいと思ひます。また、今後動物と触れ合うような時間を取り入れてみようと考えています。アニマルセラピーのように、動物と触れ合うことが気分転換や癒しにつながればいいなと思ひます。



LUCK

自立援助ホームLUCK

体験を共にし、
気持ちを共有していきたいです。

清々しい初夏を迎え、木々の緑も日増しに深くなってまいりました。子どもたちは、大学や高校で勉強に励んだり、バイトに励んだり、それぞれ自分のやるべきことをとてよく頑張っています。最近はずいぶん将来に向けた話が出てくるようになりました。先日、「大学の学費はどれくらい必要か」との質問がありました。大学の学費は、本人が負担をせざるを得ないのが現状で、バイト代を貯金していくことを話し合いました。高校に通いながらバイトをして貯金をするのは中々大変なことですが、諦めずに頑張りたいです。

去年は、新型コロナウイルスの影響もあり、皆でお出かけをするということが、叶いませんでした。そのため、今年こそは、感染対策をしっかりと行った上で、皆でお出かけに行きたいと話していました。そして、暖かくなった春頃、お弁当を持って皆でピクニックに出かけました。年頃の女の子たち



ちなみにお弁当を食べておしゃべりをして終わりかと思っていたら、想像に反し、アスレチックやブランコで声を出して笑うほど楽しんでいました。アスレチックの上から、スタッフを見つけて手を振ってくる姿は、普段ホームでは見ることができない一面でした。また、子どもたち同士の距離もより縮まったようでした。体験を共にし、気持ちを共有することの大切さを改めて実感しました。お出掛けが難しいご時世ではありますが、できるだけ皆で体験を共にする機会を作っていきたいです。



LUCK

自立援助ホームLUCK 補助員

奥田 友美

子ども達と一緒に
少しずつ成長していけたらと思います。

私はLUCKに入職する前は、全くの異業種で働いていました。人と接する事が好きで、何か自分にも人の為に出来る事がないかと考えていた時に、こちらに入職が決まりました。私は料理を作ることが大好きです。子ども達が笑顔で「美味しい!」と食べている姿をみると嬉しくなります。子ども達と少しずつですが、距離を縮めて毎日楽しく過ごさせている事がとても幸せです。

一人一人、その子の個性があるので、個性を大事にして自立への支援が出来ていければと思っています。

悩み事があれば何でも相談ののってあげて話を聞いてあげられる様な存在になれるように頑張りたいと思います。子ども達が安心して居られるような場所であれたらと思います。

子ども達と毎日楽しく
過ごせている事が
とても幸せです。

Profile

福岡県北九州市出身。人と接する事が好きで、接客業をしていました。何か人の為に出来る事がないかと、異種から入職しました。

テンポラリ小倉北

テンポラリ小倉北

1対1の時間を作り、
話をする時間を多く設けています。

ホームが開設して、2か月が経ちました。テンポラリ小倉北は、一時保護専用として運営を開始しましたが、ホームでの生活が安心出来るよう「そのままここに住みたい」と措置利用する児童も増えています。ホームの特色でもある心理士が常駐しているため、定期的に心理士が児童と1対1の時間を作り、話をする時間を多く設けています。児童と何度も話をする事によって、スタッフと児童との間に信頼関係が築け、些細なことでもいつでも相談できると考えているからです。話の内容はホームに来る前の家庭で抱えていた大変だった思い、ホームでの人間関係、アルバイトでの悩み、恋愛の話など様々ですが、子どもたちの心に寄り添い、悩みを受け入れることで、子どもからスタッフが学ぶことも多くあります。



また、定期的に様々なイベントを子どもたちと一緒に楽しんでいます。4月と5月には、誕生会を実施しました。誕生日の児童のために、飾りつけや料理の手伝いなどみんなで協力し、とても良い誕生会をすることが出来ました。一人の児童が「今まで、誕生日は最悪な思い出しかなかった。プレゼントも食事もなく、ただ弁当を与えられただけ。誕生日はこんなに温かいんだね。自分の誕生日が来るのが楽しみ」と言っていた言葉がとても印象的でした。企業理念の「あるがままを知り、個性を尊重し、受け止めて、想いを支え、みんなの心豊かな明日へつなげる」を胸に、今後も児童の思いに耳を傾け、心の成長に寄り添いたいと思います。

テンポラリー

多田 兼進

テンポラリー 指導員

子どもたちの過去ではなく、今と未来を大切に、
一人の人として尊重してあげられるような
関係を築いていきたいと思っています。

悩みの多い若者にとって、考えを押し付けたり、否定されたりすることのない、「いつでも話を聴いてくれる存在」になりたいと思いい、入職しました。子どもたちがそれぞれに持つ背景は複雑で、それらを理解することは難しいと思っています。特に私には特別な知識や経験があるわけではないため、できることも限られています。

しかしその分、知識や経験に引っ張られずに、子どもたちと素直に向き合うことができるのではと考えています。子どもたちの過去ではなく、今と未来を大切に、一人の人として尊重してあげられるような関係を築いていきたいと思っています。年齢が近いことや性別の違いによる難しさはありますが、反対にそれらを強みにできるよう、頑張っていきたいと思っています。



知識や経験に引っ張られずに、
子どもたちと素直に向き合うことが
できるのではと考えています。

Profile

福岡県福岡市出身。大学卒業後、一年間五島にて男子高校生寮のハウスマスターを経験。趣味は写真撮影、読書

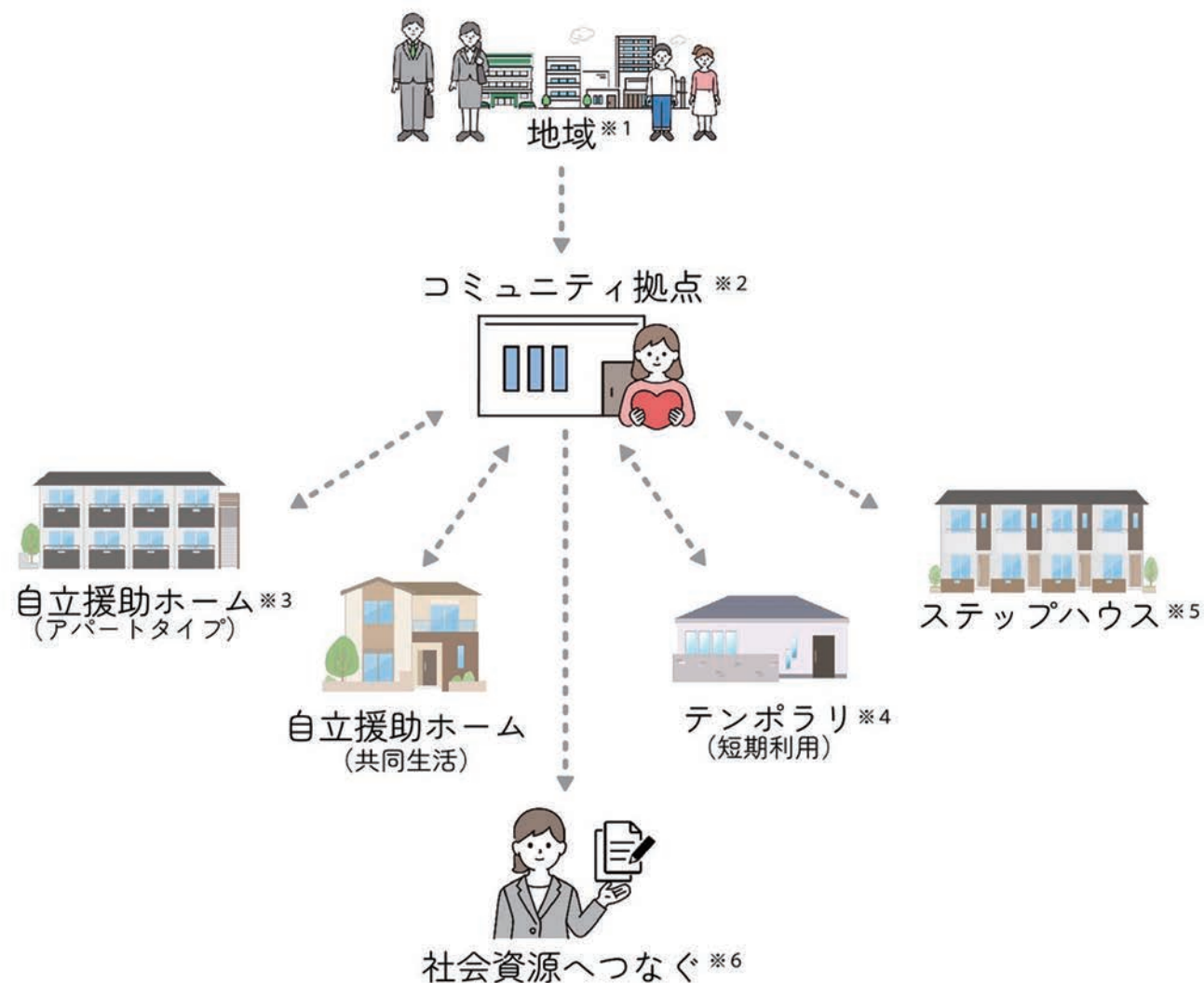
青年期の対象者への包括的なサポート。

私たちは、様々な事情により家庭での生活が困難となった15歳～成人(20代まで)の方を対象に支援を行っている団体です。生活支援や食事・居場所の提供、就労支援などを行っています。

当法人は、福岡県・熊本県・長崎県合わせて、計8か所の自立援助ホーム及び、テナポリ(一時保護)、ステップハウスがあります。

顧問弁護士等や心理士の相談支援も行っています。

虐待などの被害にあった方や、困りごとがあった時にお気軽にたずねてください。



※1.地域 行政との連携(地方自治体・児童相談所・市役所などから繋がる)。機関を通さず、直接の来訪も可能(事前に要連絡)。

※2.コミュニティ拠点 臨床心理士もしくは公認心理師常駐。相談対応。各ホームや他機関につなぐ窓口。

※3.自立援助ホーム 一軒家とアパートタイプがあり。個室・相部屋あり。共同生活の場。

※4.テナポリ 個室・相部屋あり。共同生活の場。

※5.ステップハウス アパートタイプ。一人暮らしの練習の場。

※6.社会資源へつなぐ 利用できる制度や各関係専門機関をご紹介。

個別対応を行い、自尊心を養い、 自己肯定感を育てていく役割を担う 自立援助ホームの多様性を考える

自立援助ホームに関わり始めて5年間、私が学んだ自立援助ホームについてお話いたします。

全国自立援助ホーム協議会のあり方委員会高機能多機能化グループのYouTubeを拝聴する中で、自立援助ホームは『何でも屋』『コンビニエンス化』『最後の砦と言われたら断れない』など耳にしていると、ホーム長経験の違いや考え方が異なり、さまざまな視点で議論される役割なのだと再確認しています。

『確かにそうだなあ〜』と思いながら、自立援助ホームの歴史を振り返っていくと気づいたことがありました。

自立援助ホームが制度として認められる前は、ボランティア活動のように困っている青年期の居場所を個人が支えて、共同生活を行う形に変わり、地域や行政が課題として認めてもらい補助金が設けられ、現在のような措置費制度に至る取り組みになってきたのではないかと想像を巡らせました。

自立援助ホームの歴史をつないでいただいた先輩たちは、当時から『今は無い予算』を獲得して利用者の生活が安定できるように支えてきた背景があるのではないかと…利用者の為に、多様な可能性を広げてきたことが自立援助ホームの最大の成果なのでは?確かに児童福祉法や国の政策の改定に伴い、地域が求めている自立援助ホームのあり方と、自立援助ホームを運営しているホーム長や経営者が考えるあり方は、異なっています。

私は、制度や行政に受け皿がない対象の子がいた時には、無償で居場所を提供してきた自立援助ホームの原点の気持ちを第一に考えて、頼ってくる子がいれば随時受け入れを行い、支援を行っています。

これが『コンビニエンス化や何でも屋』と言われるのであれば、そうなのだと思います。

私たちの法人は、いつも困って頼ってきた子へは、受け入れを行う取り組みを続けていく考えです。

30年前の就労は今よりも行先があり、多世代で同居して親戚などが支えあうような時代だったのではないかと思います。当然、SNSやPC等の情報化していない価値観の中では、就労支援につなげることが自立への選択肢だったと思います。

今は、就労することも困難で、SNS等が普及して心が育つ前に社会と触れ傷ついている子どもたちや格差社会で社会にもまれた親成人という立場の方が社会で受けたストレスなどを家庭に持ち帰り被害にあってしまう子など様々なケースがあり、地域のニーズも異なり、10人10色の支援の形が生まれています。

いつの時代も大変な役割だったと思いますが、語り合える仲間が欲しいと思う方もいるのではないかと思います。

これからも全国の自立援助ホームの皆さんと意見交換など行える機会を企画して、語りあえる時間を共にすごして成長していきたいと考えています。

まとまりのない内容になっていたら申し訳ございませんが、“自立援助ホームには無限の可能性がある”ことはこの5年間で学んだひとつです。

全国の皆様へお会いできる機会を楽しみに活動を続けていきます。